



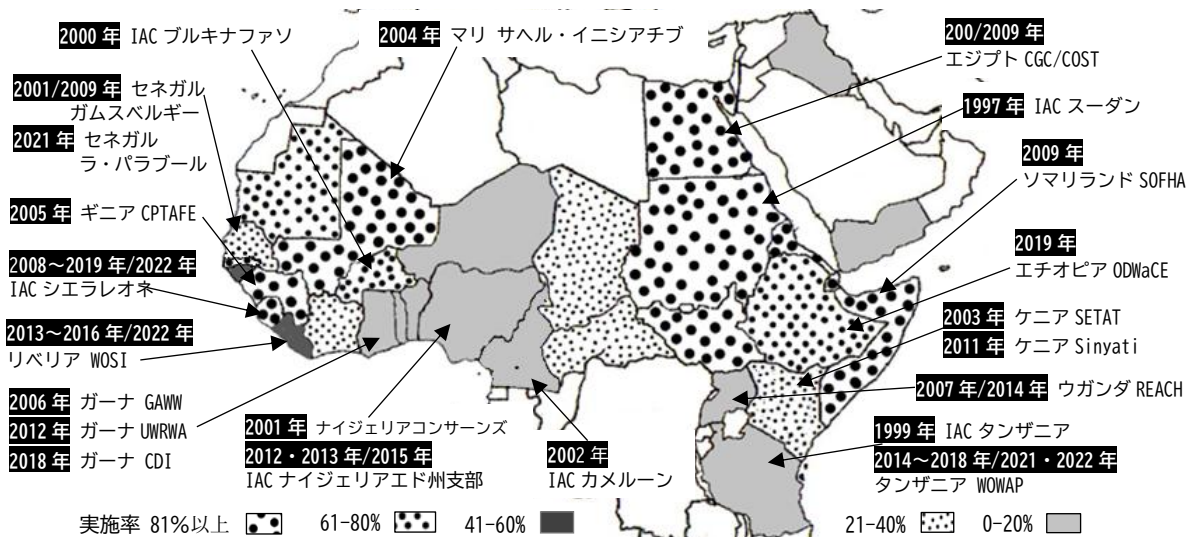
Women's Action

FGM廃絶を支援する女たちの会

Against FGM, Japan

【反FGM基金支援先 & FGM実施率】

◆1998/2007年 IAC ジュネーブ ◆2017年 スウェーデン RISK



※『UNICEF2020』を元に作成：調査データがある国で FGM を受けたことがある 15 歳から 49 歳までの女性と少女の割合

目次

- 巻頭言…3 総会報告…4 出前講座(WE21 ジャパン・伊勢原)…7
- 海外情報…7
- 28 Too Many-データ提供を通して FGM 廃絶を…9
- フェミニズム文学の嚆矢ー『花ざかりのローズ』…10 お知らせ…12

Vol.94

2023 年 7 月 20 日 発行

E-mail: waaf@jca.apc.org URL: <http://www.jca.apc.org/~waaf/>
<https://www.facebook.com/womens.action.against.fgm.japan>



村山千津子

WE21 ジャパン・伊勢原の皆様へ活動報告

WE21 ジャパン・伊勢原は、リユース・リサイクル事業を行い、その収益で貧困や不公正、災害に苦しむ人々の自立を支援する NPO 法人である。WAAF の団体会員として、また「反 FGM 基金」への寄付を通して、長年にわたり私たちの活動を支えてくださっている。

5月26日、オンラインで WE21 ジャパン・伊勢原のメンバー約 20 名の方たちに向けてお話しした。スライドを使って、FGM についての基礎的な情報や WAAF の活動に加え、「反 FGM プロジェクト」の報告も行った。皆さん大変熱心に聞いてくださり、いくつか質問もいただいた。

「FGM を受けていると出産時はどうなるのか」「廃絶運動に国連機関はどんな影響をもたらしているか」「現地へはどのような方法で送金しているのか」など、さまざまな質問が出された。「FGM について初めて聞いたメンバーにとってはショッキングな内容だったと思うが貴重な機会だった。あらためて廃絶のために何かしたいという気持ちが強くなった」というコメントもいただいたが、こちらのほうこそ、このような機会をいただき大変感謝している。こうした「オンライン出前講座」を今後も増やしていければと考えている。

当日の様子(WE21 ジャパン・伊勢原ホームページより)



← 今回の出前講座で使ったスライドの一部

WE21 ジャパン・伊勢原
<http://we21.minibird.jp/>



海外 INFORMATION



WAAF ブログ・フェイスブック掲載記事に加筆

FGM の経験について語る女性

<2023 年 4 月 8 日 TUKO.co.ke - Kenya News>
ソマリア出身で英国在住の Shamsa Araweelo が、FGM の経験について話す動画が注目を集めている。

[動画から] 6 歳の時、二人のいとこと一緒に FGM を受けさせられた。まず一人のいところが手足を押さえつけられ、口をふさがれ、施術された。麻酔や痛み止めはない。血が流れ、叫び声が響き、私ともう一人のいところは怖くなって逃げ出したが、すぐにその場にいた伯父たちに連れ戻された。守ってくれるべき大人たちが、自分をこんなひどい目に合わせるといふことただ恐ろしかった。自分の性器が切り取

られ、縫い合わされたとき、ショックで体は感覚を完全になくしていた。

FGM を受けた後に多くの少女たちが出血多量で亡くなるが、私は幸運なことに生き延びることができた。ソマリアでは FGM を受けるのはごく当たり前のこと。FGM を受けていないと「汚い」「女じゃない」と言われる。もちろん、結婚はできない。大人になってわかったのは、FGM は女性が結婚前にセックスできないようにするためのもの。女性をコントロールして、夫の喜びを優先させるためのものということだ。

高校生の時、自分がされたのは英国では「FGM =Female Genital Mutilation」と呼ばれるのだと知った。性器にダメージを与えて壊し (mutilate)、ほぼ元に戻せないという慣習。確かに慣習自体はそうだが、私自身は壊れてはいない。今でも「FGM を受けた」と言うことにはとても違和感がある。

<https://www.tuko.co.ke/people/501464-somali-woman-shares-painful-fgm-story-heartbreaking-viral-video-sewed/>

<https://www.youtube.com/watch?v=kFpOHYQlz24>

FGM 犠牲者の再建手術

<2023 年6月 14 日 TheSouthAfrican.com>

2020 年カイロにあるクリニックでクリトリス再建手術が初めて行われ、それ以来 FGM の犠牲になった女性たちの希望の光となっている。再建手術を受けたある女性は、FGM を子どものころに受けてから 20 年、ようやく「自分の身体を取り戻した」と喜ぶ。手術費用は米ドルで約\$1,300 と、エジプト人の平均月給の 10 倍もすることから、資金を貯めるのに 1 年かかったという。「公立病院でできるようにしてほしい」と彼女は話す。

エジプトでは 2008 年に FGM は法律で禁止され、イスラム教やキリスト教の宗教指導者も事あるたびにこの慣習を止めるよう呼びかけている。しかし、2021 年の調査によれば、15 歳から 49 歳既婚女性の 86 パーセントがいまだに FGM を受けている。

毎年 6 月 14 日は「FGM 廃絶に向けた記念日」と定められ、政府がテレビ CM を通して FGM の危険性を訴えている。しかし、このような啓発キャンペーンによって、親たちは怪しげな切除者による施術は危険であると知り、より安全と思われる方法を選択するようになった。その結果、現在エジプトでは FGM 施術の 4 分の 3 が医師によって行われている。

定期的に政府は医師や親が FGM を行った場合の罰則を強化している。しかし、専門家は「学校での適切な性教育、また 2017 年に設置された FGM に関する専用ホットラインの認知度を高める必要がある」と訴える。再建手術を行っている医師は、「医師たちは再建手術について一切学ばない」と指摘している。

<https://www.thesouthafrican.com/news/fgm-egypt-clinic-helps-women-reclaim-affected-bodies-14-june-2023/>

28 Too Many—データ提供を通して FGM 廃絶を

WAAF が発足した 1996 年、FGM に関する情報の入手先は限られていた。主な情報源は IAC（Inter-African Committee on Traditional Practices）エチオピア本部とアフリカ 28 か国から成る IAC 国内委員会だった。インターネットがまだ普及していない時代、アフリカをはじめヨーロッパに住むアフリカ系移民の間で行われている FGM に関する情報は印刷物が頼りだった。さらに国連機関などから出された FGM に関する指針や解説書、会議の議事録はもとより、活動家の自伝や小説も貴重な資料となった。

2010 年になると、世界的にインターネット利用が広まった。この年イギリスに 28 Too Many という NGO が設立された。名称の意味は「FGM を行っている国が 28 カ国とは多すぎる」。28 Too Many は研究団体で、FGM 廃絶を目指す人々に調査研究の結果と分析をインターネットを通じて提供することを使命とした。同団体がまとめたデータは、議員や政府が政策を改めたり、法律を改正する上で貴重な役割を果たしている。また、各国で廃絶運動を行っている団体の啓発・教育キャンペーンにも役立っている。

28 Too Many が提供する豊富なデータは信頼できる情報源として、WAAF も頻繁に参照するようになった。主なデータは、1) 各国の国情報、2) 五大洲（アフリカ、南北アメリカ、アジア、ヨーロッパ、中東）別の地域情報、3) テーマ別報告書（*児童婚と FGM、法律と FGM、FGM の医療化、宗教と FGM、SDGs と FGM、社会規範と FGM、用語と FGM）である。

国情報には、各国の FGM に関する基礎データ（実施地域、切除の年齢、FGM のタイプ、切除者）、実施率、年齢別の実施率、地図、FGM 禁止法、開発指標（人口、乳児死亡率、妊産婦死亡率、識字率、SDG ジェンダー指数）および最新の資料が掲載されている。調査結果に基づく基礎データの分析もされている。報告書は英語版とフランス語版があり、一部はアラビア語、スワヒリ語、アムハラ語、ポルトガル語、イタリア語、ソマリ語、ソラニ語などでも読むことができる。

2022 年に 28 Too Many は、同じイギリスの NGO で FGM 廃絶に取り組む Orchid Project（オーキッド・プロジェクト）の傘下に入り、FGM/C Research Initiative という新しい名称で以前と変わらず最新の情報を提供している。これからも調査や研究を担う貴重な存在だ。この 2 つの組織が力を合わせることで、FGM 廃絶運動がさらに加速し、多くの女性と女児の人生を明るくものにできるだろう。

* 児童婚：児童と言うと男児も含むがこの慣習は女児だけに向けられるものであるので最近では「女児婚」という呼称使用が提唱されている。

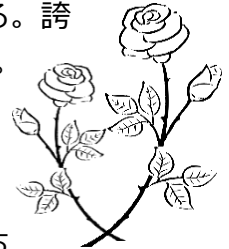


28 Too Many <https://www.28toomany.org/>
<https://www.fgmcri.org/>
Orchid Project <https://www.orchidproject.org/>

欠けるわけだが、賢く、誠実で謙虚な人柄なのでローズはフェーブを心から愛し、お屋敷の人々も何のこだわりもなく彼女を可愛がり、受け入れている。それでもやはり互いの呼称は「フェーブ」と「ミス・ローズ（お嬢様）」である。

楽しく平和に時は過ぎていくが、一族の最年長男子のアーチャーがフェーブに恋をし、プロポーズする。フェーブもアーチャーを恋しているが、冷静に「出自の分からない自分は“話し相手”としては受け入れられても身分違いの結婚が許されるわけではない」と受け止める。その通り一族の長老たる大伯母は「今まで続いてきた家名を傷つけるような結婚はどんなことがあっても認めない」と宣言する。誇り高いフェーブは敢然として屋敷を出てボストンへ行き、自活する。

『若草物語』でも姉妹たちが働く場面は出てくるがそれはあくまでも家計の足しとするための仕事だった。だが、フェーブの場合は自分でアパートを借りて食べていくための仕事だった。それをローズは「自立して、自分のために計画した生活」とうらやましい気持ちで高く評価する。フェーブは上流階級の家の子供たちの音楽の家庭教師として生活しながら、音楽家としての名声をも手に入れてゆく。もちろん当時働く女性たちは多くいたわけだが、それは働かざるをえないからの仕事だった。フェーブは安楽な生活に留まることもできたが、それを捨てて自立の道を選んだ。この小説を読んだ少女たちは、自分たちにも働いて独立した生活をするとか名声を手に入れる道があるのだと希望を見出したのではないだろうか。



その後、フェーブは大伯母の甥で彼女が一番かわいがっているアレック（ローズの叔父）の命を救うことになる。フェーブは感染性の熱病にかかったアレック叔父を一しっかり自分の本分をつくし、いざというとき女性が発揮する勇気と献身的努力で、危険と死に立ち向かい、全身全霊を仕事に打ち込んだのである。

アレック叔父がフェーブに付き添われて大伯母の屋敷に帰って来た時、大伯母はフェーブに向かって「対等の者にお辞儀するように白髪の頭を下げ、手をさしだして感謝する。そして、一馬鹿げた偏見を抱いていて本当に悪かったね。許してくれ」と言う。ただ感謝の印として結婚を許すのではなく、自分がかつて結婚を許さなかったのは「馬鹿げた偏見」だったと大伯母ははっきりと言うのである。オルコットはこうやって登場人物に階級の壁を乗り越えさせている。

一方、ローズは莫大な資産を利用して女子の孤児院や娘たちのための職業訓練施設などの慈善事業を自分の「仕事」にする。この稿では取り上げなかったが、この小説ではローズだけでなく、アレック叔父や従兄弟たちの口から、女性の生き方、職業、女性美などについて随所で語られる。その部分がとても面白いので是非ご自分で読んでいただきたい。私はこの小説こそはアメリカのフェミニズム文学の嚆矢と言っていいのではないかと思う。

（なお『花ざかりのローズ』は『八人のいそこ』の続編である。）

2023年4月1日～2023年7月6日までの会費・カンパ・反FGM基金

会 費・・・一般会員 34 名、学生会員 1 名、1 団体会員より頂いています。

カンパ・・・9 名より 27,000 円をお寄せ頂きました。

反 FGM 基金・・・14 名から 66,000 円をお寄せ頂きました。

※2023 年度会費納入用郵便払込票を同封いたしました。尚、既にお振込みいただいている場合はご容赦ください。



オンライン 出前講座 受付中

新型コロナウイルスの流行を契機に当会でもオンライン活用がぐんと増えました。昨年度は NGO「ピースボート」、今年度はすでに NPO 法人「WE21 ジャパン・伊勢原」から依頼を受けてオンラインで講座を開き、多くの方々に FGM や当会の活動などをお伝えしました。

出前講座は組織だけを対象としているのものではなく、皆様の集まりのあるところにお応えして実施していけたらと考えています。

どうぞお気軽に「E-mail: waaf@jca.apc.org」までお問い合わせください。

FGM（女性性器切除）廃絶運動を支援してください

FGM とは Female Genital Mutilation（女性性器切除）の頭文字をとった略語で、女性外性器の一部あるいは全部を切除し、ときには切除してから外性器を縫合してしまう施術です。国連機関の発表によれば 2023 年現在、アフリカをはじめとして世界 30 か国以上で 2 億人以上の女兒・女性がこの慣習の犠牲になっていると推測されます。

FGM 廃絶を支援する女たちの会（WAAF: ワーフ）は、FGM が女性の健康を阻害する有害な慣習であり女性の人権の侵害であると考え、FGM 廃絶のために立ち上がったアフリカの人々を支持しています。この慣習の廃絶をめざして運動しているアフリカの人々に支援を送り続けたいと願い、活動しています。

◆年会費 個人会員 3 千円（学生会員 2 千円） / 団体会員 1 万円

◆会費振込先 郵便振替：00170-8-580948 ◆口座名：FGM 廃絶を支援する女たちの会

編集後記 第 26 回総会を終えてその資料を本号に掲載しました。昨年度の足跡の足筋をご理解いただけたと思います。本号の表紙は「反 FGM 基金」のこれまでの交付先を年度・国別に表したものです。ここには各々の時点において、様々な形で関わった方々の情熱がぎゅっと詰まり、連なっているように感じます。＜この基金から年間に支出される額は全体の中で小さくありませんので、基金の現状を鑑みると今後何か知恵が要るように思います。⇒反 F 基金を今後どのように増やしていくかということでしょうか？＞さて、右図は二ニュースレター第 1 号（1996 年発行/現在の会の名称は 1999 年から）の表紙です。この中に「日本女性の外性器」と題して何と自分が診療した患者に無断で撮った外性器の写真を何百枚も載せ、医学書の名目で出版（初版 1995 年）したことを巡る記事があります。このことで著者は大学から訓告処分を受けたとのこと。現在この本を誰でもネットで購入でき、人権侵害が続いているようでとても嫌な感じがします。男女平等が遅々として進まないこの国、私たち市民の選択が進展のはずみになるようにと願います。（YH）

